

1、単元名 「奈良のお宝・春日山原始林」

2、単元の目標

・原始林の魅力的な自然を身体全体で感じたり、自然を守ろうとする人々の熱い思いを聞いたりする活動を通し、自然の価値や起きている困りごとについて理解することができる。

(知識・技能)

・原始林の魅力的な自然やこれからも守っていききたいという気持ちが伝わるような俳句を詠み、それを吟詠・詩吟の伝統的なリズムで吟じ、豊かに表現することができる。

(思考力・判断力・表現力)

・原始林の将来を思い、その自然の魅力や困りごとを多くの人々に知ってもらおうと心を込めて俳句を詠みそれを吟詠・詩吟を用いて一生懸命に伝えようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3、単元について

(1)教材観

本単元では春日山原始林を取り上げる。春日山には主に3つの問題を抱えている。第1に「シカの影響」第2に「ナギ・ナンキンハゼの拡大」第3に「ナラ枯れ」である。

まず、第1の「シカの影響」である。シカは国の天然記念物であり重要な観光資源であるが、原始林の新芽や若木を食べてしまうため後継樹不足や下層植生の衰退の要因となっている。次世代を担う樹がおらず、下草が減少し根が露出しているため土砂崩れが起きやすくなっている。

次に第2の「ナンキンハゼ・ナギの拡大」である。ナンキンハゼ・ナギ共に本来の植生ではなく、ナンキンハゼは中国原産の外来種でナギは春日大社に献木された国内外来種である。原始林への影響としてナンキンハゼは、シカの捕食を受けにくいと、繁殖を広範囲に広げ、他の植物の成長を妨げている。ナギは、放出した化学物質で他の植物の妨げる作用アレロパシーで悪影響を与えていると言われている。

最後に第3「ナラ枯れ」である。ナラ枯れはカシノナガキクイムシがコナラ・クヌギといった落葉広葉樹に侵入し穴を開ける甲虫が、ナラ菌を媒介させることにより木の吸水を妨げることにより気を枯らす現象である。近年では雑木林の利用の減少、地球温暖化により甲虫の繁殖促進と活動期間が延びたこと、そして長雨で木の免疫力が低下したことにより、照葉樹林のシイ・カシ類にも被害が拡大している。

(2)児童観：記載なし

(3)指導観

本単元の指導に当たり、まず、原始林に親しみのない児童を考慮し、原始林に対するイメージを確かめる。その後、自然とそこで起きている困りごとに着目し、タブレット端末を用いて調べ学習を行う。視覚的に原始林を見つめ、イメージより具体的に持たせたいと考えている。また、情報の信憑性を確かめるため、見つけた情報をロイロノートで共有し、授業者が確認する。

次に、森林の美しさを身体全体で体感し自然の魅力を発見したり、困りごとについて学習するために、春日山のフィールドワークを行う。原始林の様々な姿を観察する中で、愛着が育まれるよう気づきや自然の魅力や良さについて話し合う機会を設ける。

そして、自然を守り、未来につなげていこうとする人々の思いを知り、「原始林の魅力的な自然やこれからも守っていききたい！」という気持ちを一層高めるために、春日山原始林を未来へつなぐ会の方の講話を行う。原始林に対する自分の思いを上手く言語化できるよう講話やフィールドワークで得た気づき、学びについてグループで話し合い、書き留めた感想を共有する機会を設ける。

最後に、学習の集大成として、原始林の将来を思い、自然の魅力や困りごとを多くの人々に知ってもらおうと心を込めて俳句を詠みそれを吟詠・詩吟を用いて表現する活動を行う。思いのこもった俳句になる工夫をまとめた句作のポイントや吟詠・詩吟のリズムの表現について分かりやすく説明し、児童が自らの主題に沿った表現ができるよう教材づくりに留意する。

4、ESD との関連

○この題材で働かせる E S D の視点（見方・考え方）

- ・公平性・・・動植物のすみかになっている原始林や魅力的な自然を未来へ残していく必要がある。
- ・連携性・・・様々な立場の人々が協力して、原始林の魅力的な自然を守ってきた。
- ・責任性・・・これからも魅力的な自然を残していくために、原始林の現状を他の人に伝えたり、保護活動に参加したりするといった行動化が必要である。

○この学習を通して育てたい E S D の資質・能力

- ・未来像を予測して計画を立てる力

様々な問題を抱えた原始林や魅力的な自然を未来に残していくために、「どんなことが必要か」、「そのためにどう行動するか」、「自分たちに何ができるか」を考える。

- ・批判的に考える力（Critical Thinking）

原始林の自然が、多くの人たちの努力と工夫によって守られてきたことに気付く。

- ・コミュニケーションを行う力

原始林にはどのような魅力的な自然があるのか、またそれを未来に残していくためにはどんなことが、必要なのか、根拠を明らかにして話し合う。

- ・進んで参加する態度

原始林に対する見方や自分たちにできる保護の仕方を考える。

○この学習を通して育てたいE S Dの価値観

- ・世代間の公正
- ・自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)

多くの動植物のすみかになっている原始林や魅力的な自然を未来へ残していく必要があり、そのために自分たちができることを考え行動していきたい。

○関連する SDGs

13：気候変動

15：陸上資源

5、単元の評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
①原始林の魅力的な自然を身体全体で感じ、自然を守ろうとする人々の思いを聞く活動を通して、自然の価値や困りごとについて理解することができる。	①原始林の魅力的な自然やこれからも守っていきたいという気持ちが伝わるような俳句を詠み、それを吟詠・詩吟の伝統的なリズムで吟じ、豊かに表現することができる。	①原始林の将来を思い、その自然の魅力や困りごとを多くの人々に知ってもらおうと心を込めて俳句を詠みそれを吟詠・詩吟を用いて一生懸命に伝えようとしている。 ②原始林の自然を守っていくためには自分たちだけではなく、周りの人たちとも協力する必要があると感じ、発信しようとしている。

6、単元の指導計画(全 10 時間)

学習活動	○学習への支援	評価など
<u>みつめる</u> 春日山原始林について知っていることを発表する。 ・登ったことがある。空気がきれいで気持ちの良いところ。 ・世界遺産で、自然豊か。	○原始林になじみのない児童を考慮し、発問やタブレット端末を用いた視覚的な教材を用いて春日山に対するイメージを高める。	
<u>しらべる</u> 原始林の自然と困りごとについて調べ学習を行う。 ・春日山原始林は世界文化遺産に登録され、たくさんの動物のすみかになっている。 ・「ナラ枯れ」という木の病気が、どんぐりになる木を枯らしている。	○情報の信憑性を確かめるため、見つけた情報をロイロノートで共有し、授業者が確認する	ア① WS

春日山フィールドワークを行い、森林の美しさを身体全体で体感する。 ・鳥のさえずりや陽の光に照らされる葉っぱの緑が美しい。 ・これからこの素晴らしい自然がずっと続いていけばいいのに。 春日山原始林を未来へつなぐ会の方の講話を聞く。自然を守り、未来につなげていこうとする人々の思いを知り、原始林の魅力的な自然やこれから守っていききたいという気持ちを一層高める。 ・私も原始林の自然を守る手伝いがしたい。	○原始林の様々な姿を観察する中で、愛着が育まれるよう気づきや自然の魅力や良さについて話し合う機会を設ける。 ○原始林に対する自分の思いを上手く言語化(句作)できるよう講話やフィールドワークで得た気づき、学びについてグループで話し合い、書き留めた感想を共有する機会を設ける。	
<u>ふかめる</u> 原始林の将来を思い、その自然の魅力や困りごとを多くの人々に知ってもらおうと心を込めて俳句を詠む。	○思いのこもった俳句になる工夫をまとめた句作のポイントや吟詠・詩吟のリズムの表現について分かりやすく説明し、児童が自らの主題に沿った表現ができるよう教材をくふうする。	ウ① 成果物
<u>ひろげる</u> 吟詠・詩吟のリズムで自分の俳句を吟じ上げる。	○全校集会や参観日などを通して、大勢の人に原始林のことを知ってもらえるよう発表の場を設ける。	イ①ウ② 観察